

世界初人工授精でヒナ



人工授精で誕生したことが確認されたオウサマペンギンのヒナ(中央) 鴨川シーワールド提供

オウサマペンギン 鴨川で元気に成長

鴨川市の水族館「鴨川シーワールド」は2日、人工授精によるオウサマペンギンの繁殖に世界で初めて成功したと発表した。昨年9月に孵化したヒナを遺伝子検査した結果、同水族館で飼育しているオウサマペンギンから採取した精液による人工授精で誕生したことが確認されたという。

同水族館によると、人工授精は昨年7月、米国「シーワールド」傘下のテーマパーク「ブッシュユガーデン」の種保存研究所に所属するトッド・ロベック博士とその研究チームとともに実施。採取した精液を使って、数羽のメスに人工授精し、

そのうち1羽が産卵した。同水族館は「貴重なペンギンの一種であるオウサマペンギンの繁殖推進につながる」としている。

ヒナは同水族館で飼育・展示されており、現在は親と同じ大きさまで成長。飼育員の手からエサをもらう訓練中で、1日に700gほどを食べているという。夏頃にはヒナ特有の濃い褐色の羽毛から大人の羽に変わる予定だ。問い合わせは同水族館(04・7093・4803)。